

学長の業務執行状況の確認に基づく中間評価結果について

令和4年8月29日
国立大学法人福島大学
学長選考・監察会議

国立大学法人福島大学学長選考・監察会議において、学長の業務執行状況の確認に基づく中間評価を行いましたので、その結果を公表いたします。

1. 確認のプロセス

(1) 監事との意見交換

第1回学長選考・監察会議（令和4年6月7日）において、監事と学長選考・監察会議との意見交換を行った。

(2) 「業務実績に関する自己評価書」の検討

第1回学長選考・監察会議及び第2回学長選考・監察会議（令和4年6月21日～27日）において、学長の作成する「業務実績に関する自己評価書」の項目等について検討を行った。

(3) 資料確認（令和4年6月21日～7月28日）

次の資料の確認を行った。

- ①令和2年度及び令和3年度の業務の実績に関する報告書
- ②令和2年度及び令和3年度の監事監査報告書
- ③業務実績に関する自己評価書

(4) 学長へのヒアリング

第3回学長選考・監察会議（令和4年8月4日）において、学長に対するヒアリングを行った。

(5) 評価結果の確認

第3回学長選考・監察会議及び第4回学長選考・監察会議（令和4年8月22日～29日）において評価結果の確認を行った。

2. 結果

令和2年度及び令和3年度における学長の業務は適切に執行されていると判断する。

3. 学長選考・監察会議における主な所見

○就任直後からコロナ禍への全学的対応が求められる中、「福島大学ミッション2030」（新学長プラン）の公表、大学院の改革、地域未来デザインセンターの設置、福島国際研究教育機構への参画構想、附属学校園の改革等、多岐にわたって非常に熱心に取り組んでおり、総じて、学長の業務は適切に執行されていると判断する。

とりわけ、定員未充足の問題を解決し、研究力の強化、カリキュラム等の充実を図るため、食農学類の大学院設置に合わせて全面的な大学院改革に着手し、粘り強く議論を重ね、令和5年4月から新しい大学院に院生を迎える見通しを立てたことは特筆に値する。

○学士課程改革、新大学院及び地域未来デザインセンターの実質化等、令和4年度以降に取り組むべき事項も多い。

全学に関わる事項の実施は、膨大なエネルギーと時間を要する。大学院改革と同様に期限を設け、粘り強くかつ丁寧に議論を重ねつつも、期限を意識しながら計画的に進めていただきたい。

また、実施にあたって、大学本体の課題と学類の課題に乖離があるという課題はどこの大学でも抱えている。新規性の獲得と、歴史なり既存のシステムとのギャップという面もあるのであろう。歴史は大事だが、一方で革新的な取り組みも重要である。学長と構成員とのコミュニケーションを図る機会を設けて両者をうまくすりあわせながらも、確固たる理念をもって取り組むことを期待したい。

○学内外からより多くの期待や関心、支援を得るためには、競争と共創の中で福島大学の何を強みとするのかということを明確に打ち出す必要がある。福島大学の理念を掲げ、学内外にアピールするというシンボルティックな存在としての役割をより一層果たすことを期待する。

○研究力向上アクションプランを策定し、具現化を図っている。研究力の向上は国立大学の極めて重要なミッションであるだけでなく、外部資金の積極的な獲得、ひいては福島大学の財政的な基礎体力向上に資する取り組みであるため、是非推進していただきたい。

○附属学校園を含む全学改革に向けては、財政が厳しい中で、第4期中期目標・中期計画期間における財務見通しを学内に提示し、人件費抑制の規模と教員の補充計画を示し、学長のリーダーシップを発揮してほしい。

○福島大学が抱えている課題に立ち向かうという学長の気構えや意欲が感じられる。今後も新しい取組みに挑戦し続けることを大いに期待している。